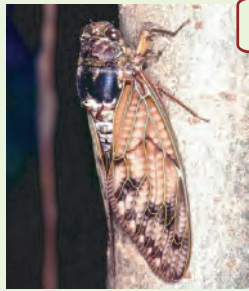




セミをさがそう



発行：福井県自然保護センター
写真協力：富沢章氏、松村俊幸氏



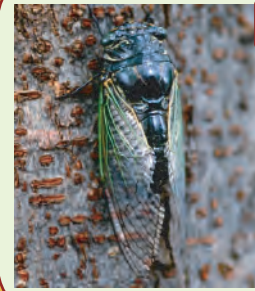
アブラゼミ

(大きさ5～6cm)
●町なかの木や果樹園にいて、一番多い
●ジーリジリジリ…とかジージーと鳴く



ミンミンゼミ

(大きさ6～6.5cm)
●里山の林にいて
●クマゼミに次いで大きい
●ミンミンミンミーと大声で鳴く



クマゼミ

(大きさ6～7cm)
●町なかの木にいて、大きくて黒い
●シャンシャンと大声で鳴く
●西日本から東海地方の太平洋側では多いが、県内ではまだ少ない



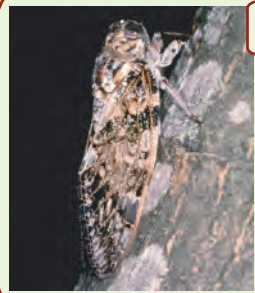
ツクツクホウシ

(大きさ4～5cm)
●平地から里山の林にいて
●ニイニゼミに次いで小さい
●ホーシツクツクと鳴く



ヒグラシ

(大きさ4～5cm)
●里山のうす暗い林にいて
●朝と夕方にカナカナと鳴く



ニイニゼミ

(大きさ3～4cm)
●町なかの木にいて、小さくて目立たない
●チーと連続して鳴く



バッタをさがそう



●バッタのオス・メスの見分け方

ほとんどのバッタは、たくさん卵を産むメスの方がオスより大きく、オスはメスの半分以下の大きさのしゅるいもいます。また、オスとメスは腹の先の形によって、見分けることもできます。

●緑色型と褐色型がある

すべてのバッタには、体が緑色の緑色型と、体が茶色の褐色型(かっしょくがた)があります。

●オスのはらの先



舟のへさきのように

手で形をとると、こうなる



●メスのはらの先

スコップの形をしたものが4つついていて、上下、左右に分かれている。ここから卵をうむ

手で形をとると、こうなる



ショウリョウバッタ

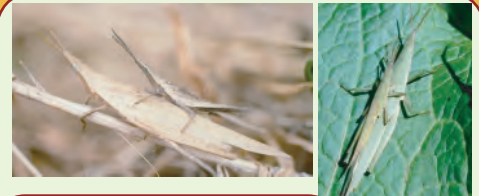
上：オスの褐色型
下：メスの緑色型

- 大きさ 4～8cm
- 時期 8～11月



トノサマバッタ

- 大きさ 3.5～6.5cm
- 時期 7～11月



オンブバッタ

左：褐色型
右：緑色型

- 大きさ 2～4.2cm
- 時期 8～12月



クルマバッタモドキ

- 大きさ 3.2～6.5cm
- 時期 7～11月



コバネイナゴ

- 大きさ 1.6～4cm
- 時期 8～11月



オス

エンマコオロギ

- 大きさ 2～2.5cm
- 時期 8～11月
- メスにはおしりに卵をうむための長い管がある

外国から来たバッタ アオマツムシ



- 大きさ 2.3～2.8cm
- 時期 8～11月

街路樹(がいろしゅ:道路のわきに植えられた木)や庭木などの木の上で、「リーリー」という大きな声で鳴きます。昔から日本にいたのではなく、外国から来たバッタで、1900年ごろ東京で初めて見つかリ、1970年代から増え始めました。今、町なかでは、一番多く鳴き声が聞こえます。



0
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28